

<新規就農者の確保又は認定農業者の育成を実施している事例>

○将来展望を見越し、次世代の就農者の育成を図る

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	和歌山県海南市東畑 ^{かいなんしとうはた}			
協定面積 35 ha	田 (21%)	畑 (79%)	草地	採草放牧地
	水稲	柿、みかん		
交付金額 471万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	地場産農産物等の加工・販売に向けた活動		24%
		水路・農道の管理、鳥獣害対策		15%
		農業生産活動の維持・管理活動		4%
		役員報酬、事務費		4%
鳥獣被害防止対策活動に向けた積立		3%		
協定参加者	農業者 28人			開始：平成13年度

2. 取組に至る経緯

第1期対策では、まずは基盤整備を行うことが重要と考え、パワーショベルやダンプカーなどの共同機械の購入を行い、必要な機材は一通り揃えた。また自ら樹園地整備や園内道の整備が行えるよう、参加者15名がパワーショベルの免許の取得を行った。

第2期対策あたりから、獣害が出始めたため、鳥獣害対策を念頭においた対策を進めていかざるを得なくなった。集落内を防護柵で囲うとともに、箱罾の設置を行っているが、獣害との戦いは続いている。

3. 取組の内容

第2期対策では、付加価値の高い農業として、みかんや柿のマルチ栽培や早生品種の導入、田では低アミロース米の新品種「ミルキープリンセス」の導入・栽培に力を入れてきた。なかでも「ミルキープリンセス」はJA直売所で生産者自らがおにぎりの試食宣伝活動を行ったところ大変好評を得ている。

また、Uターンによる新たな就農者が加わり、第3期対策の取組に向け弾みがついた。

3期対策でも、引き続き高付加価値農業の実践を進めつつ、さらに味噌やこんにゃくの加工など農家の素朴な味の伝承に取り組んでおり、集落内の廃校を活用した地場農産物加工施設の整備に向け、具体的な検討に入っている。

このような前向きな活動を積み重ね、更なる担い手の育成を図っていきたい。



ミルキープリンセス米の販売促進



参加者自ら建設した共同機械用の倉庫

[集落の将来像]

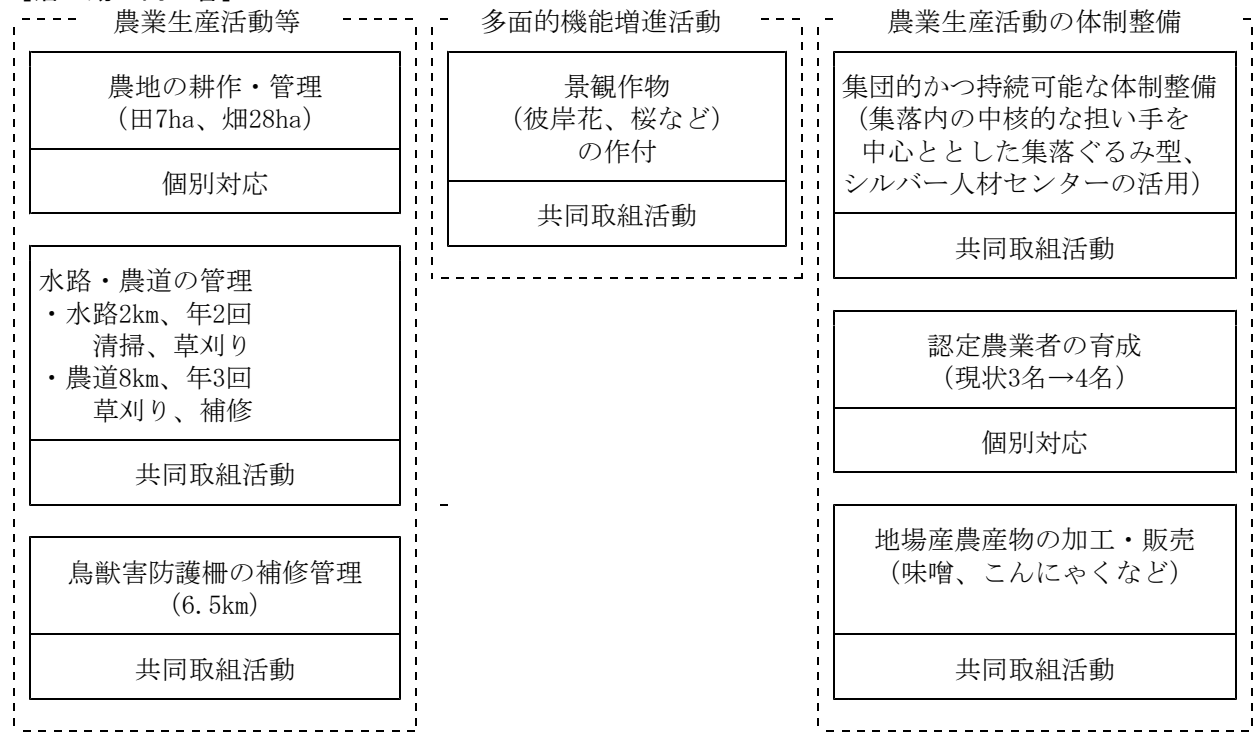
- 集落の連帯感がなお一層強まり、農地が維持され、集落の営農環境が整備されることで、中核農家が農地を集約したり、次世代の就農者や帰農者が農地活用できるようにし、豊かに、みんなが助け合って生活する明るい集落を形成。



[将来像を実現するための活動目標]

- 認定農業者を1名育成する。
- 地場産農産物の加工施設を整備し、地場産加工品の販売を行う。
- 集落ぐるみの共同取組活動により農業生産活動等の維持を図る。

[活動内容]



4. 今後の課題等

協定参加者が高齢化するものの、第1期対策で必要な機材を共同購入できたことは集落での農業生産活動の継続において大きな意味をもつものとなった。第2期対策では獣害が発生し始めたものの、獣害に立ち向かう気力が保持され、前向きな取組も行いながら、第3期対策につなげていくことができた。

しかし、集落ぐるみでの取組にも限界がくるため、次世代の就農者の育成を引き続き強化していく必要がある。

[第2期対策の主な成果]

- 認定農業者の育成 (現状2名、目標3名、H21実績3名)
- 高付加価値型農業の実践 (みかん・柿マルチ導入: 現状80a、目標130a、H21実績180a)
(優良品種への改植: 現状40a、目標280a、H21実績360a)